

液状化との関連性に注目

中越沖地震 柏崎市、刈羽村で現地調査

厚生労働省の「新潟県中越沖地震水道被害等現地調査団」(団長・宮島昌克・

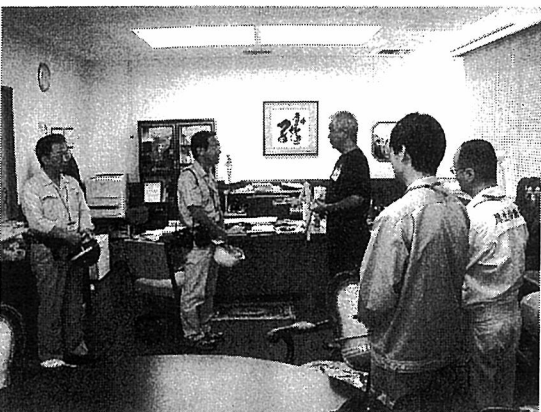
金沢大学大学院教授)は8日と9日の2日間、中越沖地震で大きな被害を受けた

柏崎市と刈羽村で、水道施設の被災・復旧状況を調査した。報告書は9月末を目

途にまとめた考え。9日付1面に関連記事) 1日目の8日には、柏崎



赤坂山浄水場で説明を聞く



刈羽村役場で品田村長(右から3人目)に面会

市の柏崎市民プラザで同市内の水道施設の被害について柏崎市ガス水道局と応急復旧で主導的役割を果たした新潟市水道局の職員から聞き取り調査を行った後、市内の被害箇所を調査した。柏崎市内での管路被害は5036箇所であり、うち塩ビ管が221箇所、一般継手のタクタイル鉄管や古い鑄鉄管が212箇所であった。また、同市の配水管網は、今回の地震により幹線クラスの管も含め大きな被害を受けたが、同じ市内であっても被害がほとんどない箇所もあった。液状化現象が発生している箇所がかなりあり、関連性に注目が集まった。同市が平成10年度から採用しているNS形などの耐震形タクタイル鉄管(布設延長約140キロ、送配水管の総延長に占める割合14.4%)には被害がなかった。仮配管(布設延長2876メートル)をしている地域の管路被害については特定できていない。

平成19年8月20日 水道産業新聞

一方、3ルートある導水管も、基本的には離脱防止機構を持たない管で、一時原水が断水したが、地盤が悪い場所に布設してある耐震形タクタイル鉄管からの漏水はなかった。浄水場、配水池の構造物には大きな被害はなく、主力浄水場である赤坂山浄水場では逆洗管(口径600ミリ)、表洗管(口径450ミリ)、薬品注入パイプ、サンプリング設備に被害があったが、浄水処理に大きな

影響はなかった。水源である川内ダムでは、天端部にクラックが数箇所発生しており、河川管理者など対策を協議している。2日目の9日は、刈羽村役場を訪問し、品田宏夫・村長に面会した。品田村長は「全国からの協力を感謝している。1日も早く完全復興できるようにがんばりたい。今回水道は、3年前の新潟県中越地震に比べ5倍強の被害を受けた。地震の揺れと被害の関連性を明

らかにして欲しい」と述べた。同村の水道施設復旧は東京都の主導で進められ、7月31日に復旧している。その後、同村内の被害箇所や柏崎市西山地区・大湊地区、同市中心部の被害を調査した。宮島団長は「管路の被害については、液状化や大きな地震の影響を検証する必要がある。これだけの被害を2週間程度で復旧させたことは高く評価すべきだ」と感想を語った。